

第二十六回 玄和全国競書大会優秀作品

審査所感

十一月二十四日(月)第二十六回玄和全国競書大会の審査会が、玄和文化院にて行われました。毎年審査の日は天気に恵まれ、雲一つない青い空の印象があります。

はじめに、この大会の趣旨をご理解いただき作品をご出品くださいました全国及び海外の団体及び指導者の皆様方に、厚く御礼を申し上げます。

審査は例年通り、学生部と一般部に別れ、見落としの無いよう幾度となく丁寧な作品選別をしました。スタッフの皆さんも毎年お手伝い頂いているので、スムーズな運営ができました。心より御礼を申し上げます。

学生部の低学年の作品は、技術よりのびのびと筆が動いていて、筆勢のある作品から伝わる生命力と、名前まで丁寧に書かれている物に高い評価が集まりました。

中学生の作品は、楷書から行書の世界への転換期であり、図形の変化・気脈による意連の運筆など、細かなところに気配りのできた作品が選ばれました。

高校生になると、芸術表現の



石原 香蘭

— 玄 和 書 道 会 賞 —



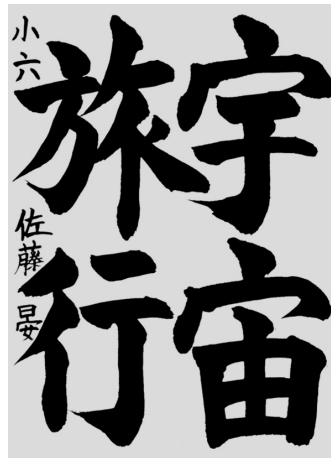
洪 璃雅(高二)



菅井 花梨



村山 美月(小三)



佐藤 晏(小六)



出井 絢菜(中一)

過渡期として古典研究（臨書）及び古典への理解を踏まえ、独自の個性を芽生えさせた作品が選出されました。

一般の部は、指導者の顔が見える作品もある中に、古典の伝統を踏まえつつ現代に通用する新しさ、現代芸術として昇華させた作品も見えてきたのはたいへん喜ばしく思いました。

求めるものは、独自性と品格、余白の白が際立つような構成員、小手先のテクニックよりも書き手の人間性が滲み出る、そういった作品は人を引き付けます。

玄和書道会の人は、上手い。羊毛を使う高い技術は、他の会を圧倒していると思います。故に、技術以上に精神性も共に養うのが良いと思います。良い悪いは自己の受入れの範疇にあるので、とにかく見て吸収して消化をする。上位入賞者の作品は、その作品に込められた熱意と努力を感じさせ、書道という芸術に真摯に向き合う姿を見せてくださいました。今後ますます研鑽を積み、一層の秀作を生み出していただけますようお願いいたします。

第二十六回 玄和全国競書大会
審査委員長 雨宮 春聲

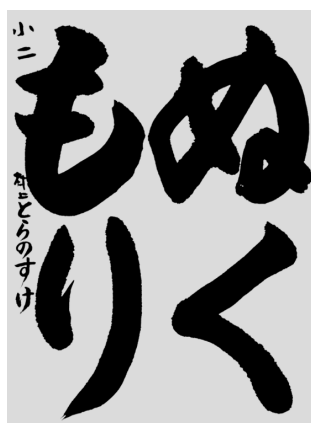
— 春 浦 賞 —



竹下 春洋



佐藤 遥香(高三)



村上虎之介(小二)



工藤 奈々



須田 結心(小四)

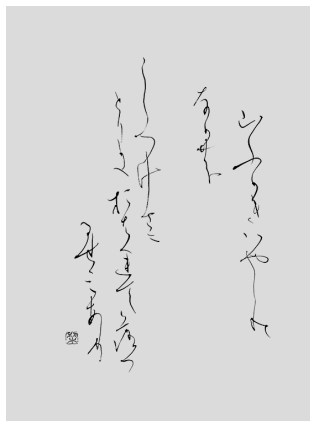


清水 紅華



芦澤 柑奈(中三)

—— 玄和書道会会長賞 ——



田中 梨風



千葉浩太郎 (高一)



中村 秀月



内田 澄香



向山陽夕香 (小一)



山崎 菜陽 (小五)



藤野 咲良 (中二)